



ODAWARA DANSEI 8th REGULAR CONCERT

1979. 7. 7



第7回定期演奏会

小田原男声合唱団 第8回定期演奏会

●とき 1979. 7. 7 (土) PM 6:30 ●ところ 小田原市民会館大ホール

情熱的な音楽作りを目指して

小田原男声合唱団 団長 松本和夫

七夕様の今宵、私共の歌を聞いて下さる沢山の方々のご協力、ご支援により第8回の定演を迎えることができまことを心より深く感謝いたします。

年月が経っても「疲れ、をおぼえない楽しいコーラスをしたいたい……」という誠実で、良心的で、情熱的な音楽づくり、そして、男声合唱にこの人ありといわれる福永先生の指揮のもと、練磨され、ゆきとどいた良い演奏にしたいと微力ではありますが努力してまいりました。なにせ、合唱のように規則正しく出席することを第一に要求されるものでは、私共のように限られた枠の中でしか練習ができないことにジレンマを感じないわけには行きません。しかし、よいものを求める気持、最高の表現に接することができるよろこびを求めて今後も努力して行きたいと考えております。

本日は魅力あふれるソプラノ歌手、勝本章子さん、伴奏には小田原になじみの深いピアノリスト、新井省吾さんをお招きいたしました。大変幸せなことです。お二人に助けられながら精一杯歌います。そして、今宵のステージが聞いて下さる方々の心の片すみにでも、何かが残るような演奏会であればと念じております。

なお本年10月28日(日)、われらの素晴らしい仲間、名古屋の東海メールクワイアーをお迎えしてジョイントコンサートを計画いたしました。どうか今後共、皆様方の暖かいご支援を切望いたしました。

今年は……………

福永陽一郎

小田原男声合唱団の定期演奏会も第八回で、つまり結成以来、七年と半分が経過しているわけです。前からもよく言ってきたことですが、小田原男声の年月は、ほんとうに「疾く過ぎ過ぎし」という感じがします。実感としては、まだ、四、五年というところでしょうか。

考えてみると、この足かけ八年は、なかなか充実した、中味の濃いすごしかたをしているのです。あの演奏会この曲目。ひよっとすると、メンバーの中には、長い八年だっただという実感が強いという人もいるかも知れません。昨年の定演のあとも、「メサイア」「マーラーの千人交響曲」「創作オペラ」と行事に行事が続き、まったく寧日無しという具合でしたから、キツイと言いつせば、社会人の合唱団としては、これほどキツイ内容をこなすところは、多くはないはずです。

それを、明日はあれがある、次の練習にはあれをやろう、と、いつでも目標物があり、それに追われるのではなく、それに向かっているという昂揚感がたのしいという、これは私自身の性格なのですが、小田原男声にも、そのような体質が、たしかにあるような気がします。

今年も春になって、あれこれの多忙で重要な行事も過ぎてしまい、ある意味でのホッと、青空がひろがったような空間を感じさせる日々がやってきて、小田原男声も、自分をとりもどいたというか、本来の男声合唱に立ちもどけるといいうか、落ち着いた日々にもどりました。大事業のかさなる十周年を二年後において、という、多少、気持をラクに持てる時期でもあります。

こうした年の定期演奏会として、あまり緊張らずに、しかし音楽的には充実したステージを持つとういうのが、一致した意見でした。そして華麗さのあるプログラムではないのですが、オトナの男声合唱団の厚みのある響きを、いっばいに練り広げたいものです。

常任指揮者 福永陽一郎

東京音楽学校（現芸大）本科ピアノ科出身、井口基成、豊増昇にピアノを、近衛秀麿に作曲法、指揮法、管弦楽法を、グルリットにオペラ指揮法を師事。藤原歌劇団のアメリカ・カナダ公演や1959年以後のイタリアオペラ来日公演などでわかるように歌劇指揮者としては屈指のヴェテランである。

合唱に関しても、東京コラリアーズの創立と育成をはじめ、現在、小田原男声の他、同志社、早稲田、法政等学生合唱団の常任指揮者をつとめ、さらに湘南コールドリユーン、藤沢市民交響楽団の常任でもあり、アマチュアと地域の音楽文化向上のため理解と情熱は20年来変わらない（藤沢市文化担当参事としてのオペラ「竜恋譜」や4回にわたる「山田一雄の世界」の制作は記憶に新しい。）。

その他、編曲、評論とその活躍ぶりは目ざましいが、今夏も、小田原男声の定演が終ると、ウィーン青少年音楽祭での国際合唱コンクール審査員の仕事が続いている（これは小田原青少年少女合唱隊も出演する）。コンクールの後、早稲田大学グリークラブを率いて、スイス、オーストリア、ハンガリー、西ドイツに演奏旅行し、さらに藤沢市民交響楽団とともに、メキシコへも演奏旅行するなど7月末から8月末にかけては、文字通り世界をまたにかけての大活躍である。



ソリスト 勝本章子

国立音大卒、同専攻科修了。伊藤京子に師事。1968年オーストリアに渡り、ウィーン国立音大に入学。70年6月最優秀で卒業。在学中すでに認められ、「魔笛」の夜の女王でデビュー、ウィーン室内歌劇場と契約し、シェーンブルン宮廷劇場をはじめ、デンマークのアールクス音楽祭でロッシニの「絹のはしご」、オッフエンバックの「ホフマン物語」、「ウエストサイド物語」などを歌いポール・ヴラニッキーの「オペロン」ではそのタイトル・ロールを歌った。また70年夏にはミルウォオーキーのウィーン・オペレッタ祭に参加し、レハールの「はほえみの国」に出演している。71年6月帰国、以来オペラ出演のみならず、「メサイア」、「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等で活躍、小田原でも73年の「第九」でそのすばらしい歌唱はおなじみである。

二期会会員。

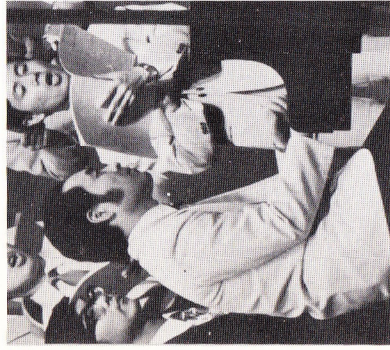


ピアニスト 新井省吾

昭和29年京都市立音大（現京都芸大）卒。ピアノを豊増昇に、指揮法を斎藤秀雄に師事。昭和31年、京都市民交響楽団結成披露演奏会および第1回定期演奏会（指揮カール・チェリウス）に独奏者としてデビュー、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番を演奏して好評を博した。

その後、リサイタル、オーケストラとの協演、特にリードの伴奏者として活躍。昭和48年、マリア・カラス、デイ・ステファアーノ初来日の折は、大阪フェスティヴァルホールでのゼミナール・コンサートのピアニストをつとめた。今年からは東京音大オペラ科で後進の指導にも当たっている。

福永氏とは朝日放送ピアニスト時代（昭34～昭36）以来のおつき合いで、藤原歌劇団、藤沢市民交響楽団でも度々協演している。小田原男声合唱団創立記念コンサートのピアニストをつとめたことはまだ記憶に新しいところである。



ヴォイストレーナー 大久保昭男

昭和28年東京芸術大学音楽部声楽科を卒業。矢田部勤吉氏に師事。近衛秀麿指揮。青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビュー。山田耕作指揮。オペラ「黒船」、ドヴォルザークのオペラ「ルサルク」等にも出演。昭和34年には、ドイツリード、日本歌曲による第1回リサイタルを開き好評を博した。現在、東京芸大、昭和音大の講師をつとめるかたわら東京の松原混声合唱団、地元の湘南市民コール、京都では同志社大学グリークラブなど、全国で20を超える合唱団のヴォイストレーナーとして精力的に活動し、日本の合唱音楽の向上に貢献している。





プログラム

I フリーメイソンのためのカンタータ

W. A. Mozart 作曲

Dir, Seele des Weltalls K. V. 429

「汝、宇宙の魂に」

Die Maurerfreude K. V. 471

「フリーメイソンのよろこび」

Eine Kleine Freimaurer-Kantate K. V. 623

フリーメイソンの小カンタータ「われらの喜びを高らかに告げ」

II 男声合唱組曲「中勸助の詩から」

1. 絵日傘

2. 椿

3. 四十雀

4. ほおじろの声

5. かもめ

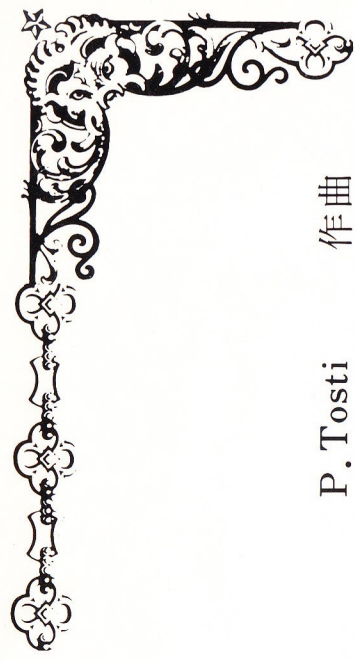
6. ふり売り

7. 追羽根

中 勸助 作詩
多田武彦 作曲

—— 休憩 ——





III トステイ名曲集

P. Tosti 作曲
福永陽一郎 編曲

- 1 L'ultima Canzone 最後の歌
- 2 Sogno 夢
- 3 La Serenata セレナータ
- 4 Marechiare マレキアーレ
- 5 Ideale 理想
- 6 Addio! さらば!

IV 日本民謡集

- 1 そうらん節 清水 脩 作曲
福永陽一郎 編曲
- 2 大島節 福永陽一郎 編曲
- 3 最上川舟唄 清水 脩 作曲
- 4 五っ木の子守唄 福永陽一郎 編曲
- 5 おおてもやん 福永陽一郎 編曲



◆ 曲目解説 ◆

福永陽一郎

モーツァルト／フリーメーソン・カンタータ

Free-Mason(英) Freimaurer(独)は、直訳すれば「自由石工組合」という意味である。大規模建築のほとんどが石造物であった中世では、石工はきわめて重要な職業であったが、彼等は他の種の職人と違って、古くから、仕事の都度賃金の支払を受け、自由労働者であった。彼等は、仕事から仕事へ渡り歩いたため、必然的に見聞をひろめられた教養人となり、また、ひとたび大きな建築にとりかかれれば、数年にわたる工事現場に滞在することから、一定の自治のルールに従うことと秩序を保持した。現存する最古の憲章は1390年のものといわれている。その憲章には、メーソン＝石工の「掟」はエジプト伝来のものだと明記されているという。

ルネッサンスを終ったヨーロッパの16世紀から18世紀までの3百年は、ヒューマニズムの興隆と科学の発達が、中世的な二つの不条理な権威、すなわち封建領主と教会とを倒していった輝かしい世紀であるが、もともと進歩的な色彩を帯びていたメーソンの組合社会に、そこにあらわれた上流社会の人士が出入りするようになり、石工でない人間が、その憲章を尊重し、そこでその精神修養に参加した。そして遂に、石工とは何の関係もない進歩的教養人の修練の場所としてのフリーメーソンの結社が成立するのである。

フリーメーソンは、それ自体、宗教団体ではないが、宇宙の建築家＝Architectを神にかわる中心と考えていた。それは太陽によって象徴されていて、巨大なエネルギーで人類を養う生物の源泉なのである。これはエジプトのオシリス神信仰に発しており、従って、フリーメーソンの憲章は、キリスト教から見れば異端である。それと同時に、フリーメーソンは、本来中世の職能組合の流れをひいて、技術秘密の漏洩防止規約がきわめて厳格であったから、自分たちの規約や典章を外部に出すことをしなかつた。そのふたつの理由から、欧米のキリスト教社会からは、秘密結社として危険視された。結社の自由を禁じたナチスからも迫害された。しかし、フリーメーソン自体はきわめて寛容な団体で、キリスト教は勿論のこと、いかなる他の宗教、主義を拒否しない。だが、きわめて厳格な道徳律が守られているだけなのである。

モーツァルトは、1784年12月5日、ウィーンでフリーメーソンに加入した。モーツァルトがフリーメーソンであったことは、長い間、秘密にされていたもののような偏見におかされていた。キリスト教からの異端視や政治体制からの弾圧が、組織の秘密化を強化していたから、フリーメーソン関係事項は、自他共にタブーとなっていたのである。

モーツァルトの最高傑作のひとつ「魔笛」がフリーメーソンの教義の劇化であることを、いまや否定する人はいない。「魔笛」の中でいやになるほど繰り返して強調される「知慧」と「徳」は、そのままフリーメーソンの最大の教義であった。それにとどまらず、モーツァルトの本当の傑作はすべてフリーメーソン精神の影響下にあることは、彼の加入が、オペラでは「後宮よりの逃走」と「ライガロの結婚」の間、交響曲では「リンツ」と「プラーハ」の間、ピアノ協奏曲では「調長K.459と二短調K.466の間」という日付になっていることに留意すれば、おのずと明らかであろう。あの永遠の名作「アヴェ・ヴェ・ム・コルプス」でさえ、キリスト教的というよりフリーメーソンの教義の反映だと言われているのである。

カンタータ「汝、宇宙の魂に」K. 429

とくにフリーメーソンのための曲とはされていないが、テキストは、宇宙の魂であり、フリーメーソンにとつて本質の根源である「光」を象徴する太陽への讃歌であり、ほかに目的があるとは考えられない。

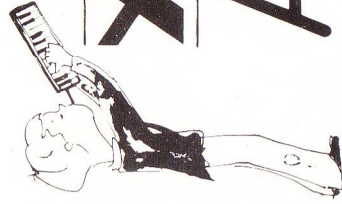
なお、K.429という番号は1783年の作曲を意味しているが、新全集版でもこの番号を（つまりは作曲年代を）踏襲しているが、ケツヒュルルの第六版で、1785年の作曲、K.468aと訂正された。モーツァルトは未完のままこの曲を残し、マクシミリアン・シュタートラーによって加筆完成された曲である。

カンタータ「フリーメーソンの喜び」K.471

「魔笛」の高僧ザラストロのモデルといわれるイグナーツ・フォン・ポルンの名誉をたたえる集会で初演された曲。1785年4月20日の作曲。この集会にはモーツァルトの父レオポルドも参列していた。テキストは当時のオーストリー皇帝ヨーゼフ二世（彼もフリーメーソンだった）の徳を讃え、またその「分団」の名称が象徴的にうたい込まれている。

フリーメーソンの小カンタータ K.623

1791年11月15日の日づけを持った作品で、モーツァルトの自身で作成していた作品目録のいちばん最後に記されているものである。「魔笛」の上演中であり、テキストも「魔笛」の台本作者、シカネーダーが作ったものである。モーツァルトの「分団」であるツァ・ノイゲクレーンテン・ホフヌングのあらたに完成した殿堂の開堂を記念して演奏された。「魔笛」を思わせる響きに満ちており、また、その死を三週間後にひかえていている病人の作曲とは思えないほど清澄なさわやかさを持った作品である。



◇ 音楽と仲よしになれる、新しいカタチ、新しい音。

XPOTAYOT

A-32

株式会社 鈴木楽器製作所
浜松市漁家町443 TEL(0534)-61-2325(代表) 〒430

鈴木楽器販売株式会社

横浜市緑区荏田町1856-8

横浜(045)911-1916

トステイ歌曲集

Francesco Paolo Tostiは、1846年4月9日、アブルツツイのオルトナーナ・スル・マレに生まれたイタリアの歌曲作曲家である。ナポリのサン・ピエトロ・マイエラ王立音楽院でヴァイオリンと作曲をまなんだ。のちにローマで声楽教師として成功し、1875年ロンドンでも成功。やがてヴィクトリア女王のイギリス王室付音楽教師としてロンドンの定住。音楽出版社チャペルと契約して多くの歌曲を発表した。1908年、エドワード七世より男爵を授けられたが、遂にロンドンを去りイタリアへ帰国。1916年12月2日、ローマにおいて70歳の生涯を終えた。トステイは、声楽教師という職務から、当然、歌曲を多数作曲した。その歌詞はイタリア語のほか、英語、フランス語が用いられ、いずれもきわめて美しい旋律を持っている。その流麗な旋律に対応する柔軟で平明なハーモニー、抒情詩の情感をそのまま歌い出したような直截な表現は、現代にある。なお、トステイの歌曲の愛好者を酔わせ続けている。"甘美な歌曲"という語は、トステイの作品のためにある。トステイの歌曲は、わが国では、声楽の初心者や、コンコーネを終了し、古典イタリア歌曲のいくつかを修得したのちに、その発声と表現をより外向的に訓練する段階の教材として広く利用されている。小田原男声では、かつて「古典イタリア歌曲集」の編曲を採りあげたが、今回はそれに続く企画である。

最後の歌

この曲は「甲斐なきセレナーデ」の一種である。『自分が想いをかけていたニーナは、明日お嫁にいらしてしまふ。もう一度、最後のセレナータをさいておくれ』とうたうこのメロディは、いかにも南欧の情緒に溢れている。

夢

トステイのあまたある歌曲の中で、もっともすぐれたものという定評がある。シュエマーンの歌曲「夜ごとの夢に」に似た情感がある。旋律と和音の微妙な結びつきが実に美しい。

セレナータ

昔から「トステイのセレナーデ」として有名。世界中の名歌手によってうたわれてきた。軽やかな旋律の飛翔が生命なだけに、歌唱は決して安易ではない。

マレキアール

ナポリのカンツォーネがそのまま芸術歌曲になつたような、耳もとでマンドリンでもきこえてきそうなセレナータである。原詩はナポリ語だが、本夕はパリアラが標準イタリア語になおしたテキストでうたわれる。ナポリ方言は、発音がむづかしく、日本人には真似てきかないと思われる。

理想の女

戦前から、スキューバ ジーリ、ピョルリンクなどのテノールの愛唱歌として、広く知られた名曲である。甘美な恋の想いが、わびしい一人ぼっちの部屋の中にあふれる時、去って行った理想のひとに『帰ってきておくれ』と叫ばずにはいられない、情熱のかたまり！

さらば！

もともと英語の歌詞に作曲されたもので、原題は "Good Bye!" という。コーダで

Good bye forever! Good bye, Good bye.

Good bye! Good bye!

とくり返されるところは素晴らしい感情のたかまりをみせるのだが、今夕は統一をはかってリッツェッティのイタリア語訳でうたう。

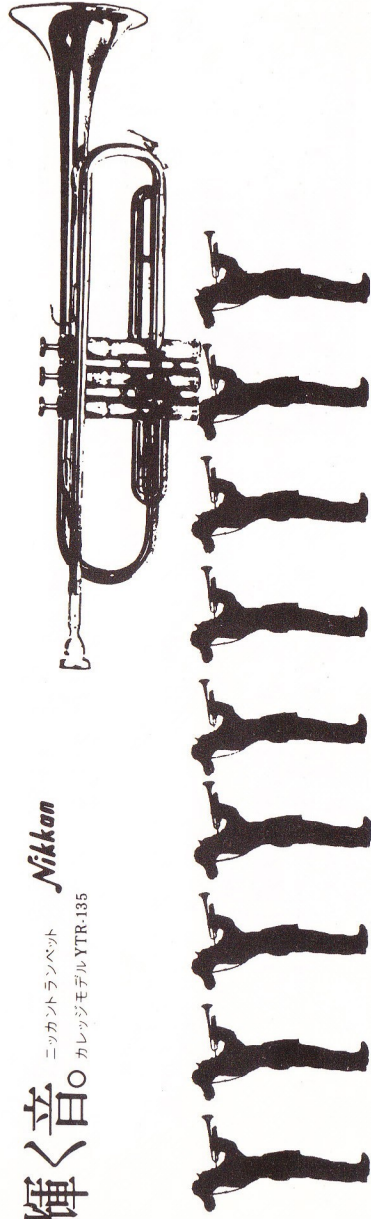
なお、男声合唱用の編曲は、北村協一氏のものだが、出版もされ広くうたわれてもいるが、今夕のは私（福永）の書きおろしの編曲で、初演である。

輝く音

ニッカントランペット

Nikkan

カレッジモデル YTR-135



日本民謡集

どこの国の合唱団でも、自国の民謡をうたわれない合唱団はひとつもないと言ってよいだらう。民衆の喜怒哀楽の声であり、祭りのにぎわい、労働の活力のアクションであるとするれば、民謡が“集団のための歌曲”であるのは当然だからである。日本でも、民謡を合唱曲にしようという試みは、もう早くからおこなわれてきた。しかし、元来、民族の音楽本能としてハーモニイ感を持っていない日本で、つまり、かなり芸術的に高度に仕上がった江戸時代の舞台音楽においてさえ唄と三弦と笛と尺八などが大部分においてユニゾンでとおす音楽上の民族性を持つ国で、民謡の和音づけという作業はほとんどが否定的な結果しか生まれない試行錯誤を、長いあいだくりかえしてきたのである。

さらに言えば、いま日本で合唱をやる人々の音楽素養は、例外はあるだろうが、一般的には日本の伝統音楽と無縁のところまで育てられたものだろう。ごく近年、義務教育のなかに伝統音楽がとり入れられたようであるが、いま合唱をやるような人は、むしろ日本の伝統音楽に背をむけてハーモニイ感を身につけたからこそ、合唱ができるようになったとさえ言える。とすれば、日本の合唱団が自分たちの民謡をうたおうとすると、作曲編曲の側からも、矛盾と困難は避けられないと考えられる。

こゝ十年をそんなに越えないあいだに、事態は非常に好転した。三弦音楽における、開放弦の共鳴によって潜在的にひびいている和音の研究が進み、具体化の方法論が個別的ながら確立し、日本民謡の合唱化は、以前しばしばそうであつたようには、音楽的な本質をそこなうことなく、またヨーロッパ音楽を経験したものにとって単純すぎるといふことでもなく、演奏にも鑑賞にもたえられぬものとなった。そのうえ、そのいくつかは、すでにスタンダードなレパートリーとして定着してきている。本日演奏される清水脩氏の作品と私のものはどれも、すでに日本中の男声合唱界に膾炙しているだけであつて、欧米にも紹介され、かの地の合唱団によつてもしばしばうたわれていた合唱曲であり、もとの歌がポピュラリティの高いものだといふだけでなく、合唱音楽としての構成に成功したものだといふことができる。

オープニング 森の歌声

三沢 郷 作詞

夕べ 森を吹く風の言葉は たえに懐し
今宵 その森に歌をささげよ Tra La La La
若きその歌 若きあこがれ
若き瞳 若きかんばせ

楡のこずえに 夜風渡れば
星は輝き 月も疾くいでよ La La La La
若きその歌 若きあこがれ
若き瞳 若きかんばせ

聞けやこの夜 風はひそかに
乳色の夢 まどかにけむる
森のうたげを その森の歌を

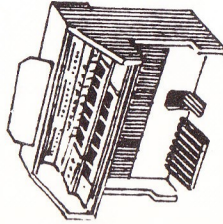
クローズイング

阪田 憲夫 作詞

暗い地球に あかりがともる
ひかりの輪の中に 微笑がある
さびしいけれど ひとりぼっちじゃない夜
おやすみ 今日の日
おやすみ 仲間

霧が川から 静かに昇る
おまえの窓の灯も やさしくうるむ
さびしいけれど ひとりぼっちじゃない夜
おやすみ 今日の日
おやすみ 仲間

講師養成(特別)コース募集中



- ピアノ経験をお持ちの18歳以上の方
〈コース概要〉
第1課程 5ヶ月コース←ビクトロン
第2課程 1年コース→ビクトロン6
級講師資格〈理論講座〉
〈レッスン料〉
第1課程(入会金) ¥2,000

ビクトロン

小田原おほりばた通り井上楽器 0465(24)0515までお問合せ下さい



日本ビクター株式会社

井上楽器音楽教室 生徒募集

- ★ビクトロン科
- ★ピアノ科
- ★幼児音楽教育科

4歳児・5歳児をおもちのお母さんへ。

ピアノ・ビクトロンのための《幼児音楽教育科

お子さんに音楽を身につけさせたいとお考えのお母さん!

リトミックとソルフェージュによる音楽教育

小田原男声この1年 1979~'80

2月 12日 山田一雄の世界「マーラー千人の交響曲」(藤沢市民会館)

6月 9~10日 箱根合宿(仙石原) 17日 第28回湘南合唱祭(小田原市民会館)

7月 7日 第8回定期演奏会

10月 21日 小田原市民合唱祭 28日 東海メールクワイヤーとのジョイントコンサート

'80 3月 19日 ベルリン・リーダー・タワーフェスティバル演奏会

1978~79 演奏曲目

中田喜直(福永陽一郎編)「海の構図」
シューベルト ミサ曲ト長調(男声版)
ブラームス(福永陽一郎編)ジプシーの歌
ヘンデル メサイア(混声)
マーラー 交響曲第八番変ホ長調「千人の交響曲」(混声)
ミュージカル名曲集/学生王子のセレナード、ハロードリー、インディアンラヴコール、オールマンリヴァー
ケルビーニ/レクイエム 二短長からキリエ、怒りの日、奉獻唱、神の小羊、(合同合唱)

第9回 定期演奏会

●と き 1980年7月12日(土)

●ところ 小田原市民会館大ホール

予告

- 曲目 ① ドイツ・ミサ……(シューベルト)
② 合唱による風土記「阿波」(三木稔)
③ 合唱組曲「島よ」……(大中恩)
④ ミッチャミラースタイルによる名曲集

オダダンの心のふるさと



郷土料理

お茶漬・おむすび

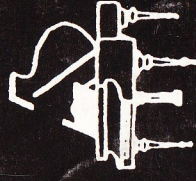
(九州出身の方ぜひ一度お越し下さい)

●小田原駅前 北本ビル (電)23-0288

手づくりの良さと

ドイツレンナーハンマ/6角ワイヤー使用

マスターピアノ



の井上楽器

小田原市栄町1-13-36(お堀端通り)

☎04624-0515(代)

小田原男声合唱団事務局